

令和 6 年度
運営に関する計画
(中間評価)

大阪市立大淀中学校
令和 6 年 11 月 26 日

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 (新規) 11月末実施予定
- ② 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を84%以上にする。
修正 (R5年度 75%) 11月末実施予定
- ③ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(継続) (R5: 9. 5 %, R6. 10 : 9 %)
- ④ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(継続) 調査継続中のため最終反省で明示

※前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

1. 出席日数の増 (学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む)
2. ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
3. 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を32%以上にする。修正 (R5年度 26.2%) 11月末実施予定
- ② 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
(継続) 3年生 国語 R5 : 1.08 R6 : 1.09、数学 R5 : 1.26 R6 : 1.25
- ③ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を65%以上を保つ。修正 (R5年度 73.4%) 調査結果待ち
- ④ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53%以上にする。修正 (R5年度 47.3%) 11月末実施予定

【学びを支える教育環境の充実】

- ICTの活用に関する目標
- ① 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] (新規追加) 9月末現在 : 20.9%
 - ② 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。 (継続) 継続中
 - 教職員の働き方改革に関する目標
 - ③ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。
(修正 R5-82%) 10月末現在 : 48.6%

(様式 2)

大阪市立大淀中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 (新規)</p> <p>② 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を84%以上にする。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (継続)</p> <p>④ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>(継続)</p> <p>※前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <p>1. 出席日数の増 (学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む)</p> <p>2. ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3. 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめへの対応（生活指導部） ・いじめ防止基本方針の周知徹底を図る。 いじめについて、学級、学年、学校全体で話会う機会を作り、いじめはどんな理由があってもいけないことであることを学ぶ取り組みを行う。 ・いじめについて年2回校内調査(生徒アンケート)を行う。		
指標 ① 保護者アンケート「学校は、仲間関係を大切にし、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。」において肯定的な回答を90%以上にする。(R5年度肯定的な回答90%) ② 校内調査を行い、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の最も肯定的な回答を85%以上にする。(R5年度84%)		
結果と分析	5月にいじめ(いのち)について考える日の取り組みを学級、学校全体で行い、意識を高める取り組みを行うことができた。1学期に実施したいじめアンケートで、認知したいじめの件数は1年生5件、2年生1件、3年生1件であった。2年生は昨年度からの継続指導中の案件である。校内調査では、取り組み前は最も肯定的な回答は84%、取り組み後は85%であった。保護者アンケートは2学期末に行う。	
今後の改善点	いじめは、いつでもどこでも起こることを前提として、継続して見守り、観察をしていく必要がある。2学期もいじめアンケートを行い、状況把握と問題解決に取り組む。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校への対応（生活指導部） ・生活指導部が中心となり、「おおよどエンパワーメントルーム(以下、ER)」を運営し、生徒の学びを守る。 ・週1回の生活指導連絡会、学期に1回のスクリーニング会議で、不登校生徒の情報共有を行い、可視化することで誰とも繋がりのない生徒を作らない。 ・SSW、区役所をはじめ関係諸機関との連携を密に行う。		
指標 ① 不登校生徒を学校全体の10%以下にする。(R5年度9.5%) ② 学校、関係諸機関と連携し、誰とも繋がりのない生徒をゼロにする。(R5年度0人) ③ 不登校生徒（欠席30日以上）のうち前年度の登校日数より1日でも多く登校できる生徒を3人以上にする。(R5年度4人) ④ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(校内調査は隨時行う) 新規		

結果と分析	<p>①1 学期末時点で、10日以上欠席で不登校である生徒が34名いる。学校全体の9%である。</p> <p>②不登校生徒において、学校や関係諸機関などと繋がりがない生徒は現在 0 名である。SC や関係諸機関などと連携している生徒は現在 17 名である。</p> <p>③2学期10月末現在で昨年度より投稿日数が改善されている生徒が1年生1名、2年生4名、3年生4名、合計9名いる。ER の利用や教育支援センターなど個に応じた登校支援が出来てきている。</p> <p>④アンケート調査は 2 学期末に予定されている。</p>	
今後の改善点	<p>新たな不登校生徒が増えないように初期対応を丁寧に行っていく。</p> <p>関係諸機関と1度、繋がったが継続することが出来ていない生徒の対応を考えていく必要がある。</p>	
取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 防災・減災教育の推進(生活指導部) <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・防災教育を通して生徒の防災意識を高めるとともに、地域防災リーダーとしての役割を担うことができる人材育成を行う。 ・地域と連携した避難訓練・防災教育を年2回以上実施する。 		
指標	<p>① 防災の日に参加された地域の方へのアンケート「今回の防災訓練での取り組みが緊急時において中学生と共に地域全体で活かすことができると思いますか」において肯定的な回答を 70%以上にする。(新規)</p> <p>② 生徒アンケート「防災訓練で習ったことを実践できそうですか」において「できる」回答を 55%以上にする。(R5 年度 55%)</p>	
結果と分析	<p>① 防災の日に参加された地域の方へのアンケート「今回の防災訓練での取り組みが緊急時において中学生と共に地域全体で活かすことができると思いますか」において肯定的な回答は 85%であった。</p> <p>② 生徒アンケート「防災訓練で習ったことを実践できそうですか」において「できる」の回答は 53%であった。(1 年 56%、2 年 44%、3 年 61%)</p>	
今後の改善点	<p>生徒アンケート「防災訓練で習ったことを実践できそうですか」において「できない」と回答した生徒は極めて少ない。また、「できる」の回答に対して、2年生の割合が低く、生徒が落ち着いて迅速で正しい判断をするための自信を育むことが課題である。今後も地域へ発信をしていくことで、地域との連携を強化し、生徒が社会の一員としての有用感を高める必要がある。</p>	

取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

問題行動への対応(生活指導部)

- ・問題行動を未然に防げるよう、生徒の見守りや、声掛け、観察を行う。
- ・問題行動が発生した時、初期対応をていねいに行い、学校全体で対応する。
　発見者→学年→生徒指導部→管理職に状況報告を行う。
- ・再発しないように指導し、その後の見守りを継続する。

指標

①生徒アンケート「学校は、学校の決まりを守るなど、社会生活のルールを守っている。」(規範遵守)の肯定的な回答を95%以上にする。(R5年度 肯定的な回答 99%) (新規)

②保護者アンケート「学校は、学校の決まりを守るなど、社会生活のルールを守る態度を育てようと努めている。」(規範遵守)の肯定的な回答を95%以上にする。(R5年度 肯定的な回答 98%)

結果と分析	生活指導連絡会や朝の職員打ち合わせなどで、問題行動の連絡などは周知できている。問題行動発生した時の迅速な対応についてはできている時とできていない時がある。保護者アンケート、生徒アンケートは2学期末の校内調査で実施する。	
今後の改善点	問題行動発生が少ない状況の中でも危機感を持つ。問題行動発生時に、初期対応を丁寧に行い、迅速な連絡を徹底できるようにし、1人で対応しようとせずに学校全体で対応する。	

取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

安心教育の推進(管理職・施設整備委員会)

- ・老朽化や不衛生設備と施設の改善

指標

①毎年の改善項目の列記

②安全衛生委員会、施設設備委員会を学期に1回開催し、老朽化や不衛生設備の確認をする。

結果と分析	壁掛け扇風機の新設、液晶プロジェクターの移設、移動式防球ネット塗装(15台)は実施済みである。	
今後の改善点	計画されている未実施分の修繕等を、計画的に実施する。 未実施箇所:保健室壁板張替え(11月決議、2月実施)、体育館防鳩ネット設置(11月決議、2月実施)、屋上プールマンホール(12月決議、3月実施)とテント(12月決議、3月実施)の改修、プロジェクターの新設(11月決議、2月実施)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 道徳教育の推進（人権・道徳教育委員会） 人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他人と共によりよく生きるために基盤となる道徳性を養う。		
指標 授業の学年末アンケートの「他者の意見を聞いて、自分の思いを伝えることができた」において、肯定的な回答 93%を維持する。（R5 年度 93%）		
結果と分析 授業の学年末アンケートについては、1月実施予定のため、最終報告の時に分析する。1年生：平和学習「大阪空襲」2年生：平和学習「原爆・広島」3年生：平和学習「沖縄戦」を8月に実施した。今後、各学年「性・生教育」を実施予定。		
今後の改善点 平和学習の実施にあたり、朝日新聞「知る原爆」「知る沖縄戦」「知る水俣病」を今年度活用したので来年度も続けていく。		
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 インクルーシブ教育の推進（インクルーシブ教育推進委員会） 保護者の願いを踏まえ、個別の支援計画・個別の教育指導計画を作成し、指導の明確化と共有を図る。また、特別支援学級と通常学級の連携を密にし、基礎・基本の学力の定着を図る。		
指標 ・サポートルーム保護者アンケート「特別支援学級は、保護者の願いにこたえた教育活動を行っている。」において、肯定的な回答 90%以上を維持する。（R5 年度 95.8%） ・サポートルーム保護者アンケート「子どもは、特別支援学級の授業がわかりやすいと言っている。」において、肯定的な回答 80%以上を維持する。（R5 年度 81.0%）		
結果と分析 前期に実施したサポートルーム保護者アンケート「学校（特別支援学級）は、保護者の願いにこたえた教育活動を行っている。」において肯定的な回答が 88.0%、「子どもは、学校（特別支援学級）の授業がわかりやすいと言っている。」において肯定的な回答が 78.3%であった。個別の教育支援計画、個別の指導計画を基に、生徒一人ひとりに応じた合理的配慮、自立活動を行っている。		
今後の改善点 個別の教育支援計画、個別の指導計画を基に、生徒一人ひとりに応じた教育活動や授業の改善を、サポートルーム担当者を中心に意見交換し今後も適宜、個別の指導計画を見直し、改善を図る。		

<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>キャリア教育の充実（進路指導委員会）</p> <p>3年間の系統だったキャリア教育を実践する。1年生では、社会や職業について学習する。2年生では職場体験等を通じて、自らの将来について考える。3年生では、過去のキャリア体験を踏まえた進路実現を目指す。</p>	
<p>指標</p> <p>キャリア学習の後に実施したアンケートで、将来展望に関する項目で肯定的な回答を 80%以上にする。（R5 年度、生徒アンケート「将来の進路や生き方について考えている」について肯定的な回答 77%）</p>	
<p>結果と分析</p>	<p>1年生は、11月に進路講話と職業 Expo に参加し、将来展望を持つよう指導した。2年生は職業体験を踏まえて自身進路選択の一助とするよう指導した。3年生は進路決定の時期となるので、不適応を起こさないように、丁寧に対応するよう心掛ける。</p>
<p>今後の改善点</p>	<p>11月実施予定の生徒アンケートを基に、最終反省には集約して具体的な達成状況を分析し改善する。</p>
<p>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>人権を尊重する教育の推進（人権・道徳教育委員会）</p> <p>学年ごとの取り組みを中心に、心のふれあいとぬくもりのある豊かな心を育む教育活動を推進する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「自分のことを大切にし、他の人の大切さを認めることができる」において、肯定的な回答を 90%以上を維持する。（R5 年度 肯定的な回答 93%） ・人権講演会を年度内に実施し、肯定的回答が 85 %以上にする。 	
<p>結果と分析</p>	<p>12月実施予定の生徒アンケートを基に、最終反省には集約して具体的な達成状況を分析する。</p>
<p>今後の改善点</p>	<p>生徒アンケートは12月末に実施予定のため、最終報告の時に分析する。人権講演会「LGBT」を 12 月 12 日に実施する。講演を井上鈴佳さんにしていただく。内容は LGBT と性の多様性に関する出張授業をしていただく。</p>

	<p>取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>北区事業の活用（教務部視聴覚係・主任会）</p> <p>北区事業を活用し、本物の芸術鑑賞会を実施する。</p>	
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートで「芸術鑑賞に興味はもてましたか」「また、芸術鑑賞会に参加したいですか」の項目について肯定的な回答 80%以上を維持する。 ・「芸術鑑賞に興味はもてましたか」肯定的回答 R 5 年度 項目なし、R 4 年度 83.9%) ・「また、芸術鑑賞会に参加したい」肯定的回答 R 5 年度 82.9%、R 4 年度 81.7%) 	
結果と分析	<p>3年生は梅田芸術劇場でロミオ&ジュリエット、2年生は劇団四季によるバケモノの子、1年生は天満天神繁昌亭にて上方落語をそれぞれ鑑賞した。北区芸術鑑賞事業を活用して本物を鑑賞した。芸術鑑賞に興味はもてましたか肯定的回答 R6年度 88.3%(3年 84.7% 2年 89.7% 1年 90.5%)また、芸術鑑賞会に参加したい肯定的回答 R6年度 89.1%(3年 89.1% 2年 94.0% 1年 84.2%)今年度は例年に比べ高い。2年生は、物語はわかった?という質問においては最も肯定的な回答が 80%を超えており、肯定的回答は 98.3%だった。映画を鑑賞していた生徒が内容を理解しやすかったことが考えられる。同様にロミオとジュリエットも最も肯定的な回答が 50%を超え、肯定的回答は 91.3%だった。わかりやすい、なじみのある演目は鑑賞しやすいことが考えられる。</p>	
今後の改善点	次年度の鑑賞日候補を検討し始めており、生徒が鑑賞しやすい計画をたてる。	

(様式 2)

大阪市立大淀中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を32%以上にする。修正（R 5 年度 26. 2%）	
② 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。（継続）	
③ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を65%以上を保つ。修正（R 5 年度 73. 4%）	
④ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53%以上にする。修正（R 5 年度 47. 3%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 国語科 ・問題解決能力、論理的表現力を高めるために、生徒が「書く」、「話す」などの学習活動で、能動的に取り組み、自分の考えを表現できる授業を展開する。 ・思考力・判断力・表現力を育てるために、全学年で新聞の書き写しの家庭学習の確立に取り組み、また記事に対して自分の考えをまとめる活動を行う。 ・誰一人取り残さない学力の向上を目指し、文法分野や漢字検定のライセンス取得に向けた習熟度別少人数授業を行う。	
指標 ・中学生チャレンジテストにおける国語の「書くこと」を問う問題の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。（R5 年度チャレンジテストの「書くこと」 平均点の対府比 、 1 年 - 0.3 、 2 年 +1. 1 ）	

結果と分析	3年生チャレンジテスト「書くこと」の平均点の対府比は、+1.4であった。同一母集団では、昨年度より+0.3ポイントである。日々の漢字テストや暗唱テストの結果をみると、無回答率が減少していることから、基礎的な学力が定着しつつあるのではないかと考える。副教材のワークを使用することにより、「書くこと」についての実践的な問題に慣れるともできている。習熟度別少人数授業においては文法・漢検対策を中心に各学年計画立てを行うことができている。	
今後の改善点	忘れ物や提出物の不備及び未提出者が一部目立ってきている。授業についていけるよう手助けしつつ、持ち物をそろえる習慣づけ、提出をやり抜かせる方策を個別に行っていく必要性がある。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】		
社会科		
<ul style="list-style-type: none"> 問題演習や自主学習を通じて、生徒の理解を深める。全学年でTTの授業を開き、学年ごとに応じた習熟度別少人数授業を行い、学習の習慣づけや問題解決能力を高めていく。特に、記述による解答に課題があるため、文章を書く力をつけていく。 		
指標		
<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおける「授業内容がよくわかる」においての肯定的回答を80%以上を維持する。(R5年度、肯定的な回答 1年93%、2年93%、3年91%) チャレンジテストの「無解答率」を大阪府平均以下にする。(R5年度チャレンジテスト「無解答率」3年3.0%/大阪府3.1%2年2.2%3.5%) 		
結果と分析	3年生チャレンジテスト「無解答率」は、大阪府の平均5.8%に対して、4.2%であった。1.6%上回っている。また、演習問題や自主学習などの生徒の到達度、テスト結果における20点以下の生徒の減少などから、基礎的な学力は定着しつつある。授業への集中力もしきつつある。TTの授業では問題演習などで、一部の自力では問題が解けない生徒や集中力が切れる生徒への対応ができつつある。	
今後の改善点	学習の習慣づけや問題解決能力も高まりつつあるが、一部の生徒はまだ、十分には基礎的な学力も伸び悩んでいる。習慣づけでは、忘れ物や提出物など、限られた生徒に改善が見られないで、個別対応に切り替えていく必要がある。	

取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

数学科

- ・自学自習力を高める「学び方」の指導を進める。
- ・学びあい活動を積極的に取り入れた授業展開を進める。
- ・記述式問題に取り組むための読解力、思考力を養う機会を増加する。

指標

- ・生徒アンケートにおける自学自習(家庭学習)においての肯定的回答を 80%以上にする。(R5 年度、肯定的な回答 3 学年平均 79%)
- ・生徒アンケートにおける話し合う活動においての肯定的な回答を 80%以上にする。
- ・チャレンジテストの「無解答率」を 10%以下にする。また、経年比較し、平均点を前年度より 0.03 ポイント向上させる。(R5 年度チャレンジテスト「無解答率」、1 年 8.3%、2 年 5.0%、3 年 6.4%)

結果と分析	・1, 2年生はチャレンジテストに向け、基礎基本の定着から発展的内容・記述式問題への対応を練習させていきたい。3 年生は、対府平均+12.4 で、無答率は 8.0% であった。(大阪府は 14.8%) 通常授業や習熟度授業において、自学自習で行う部分と、話し合う活動(グループ学習)で行う部分の両方を積極的に取り入れた授業を実施している。話し合う活動や記述問題を授業や課題に取り入れることで、自分の意見や考えを述べる機会が増えている。アンケートについては現時点では未実施である。
今後の改善点	・生徒は「自学自習」の方法については、生徒自身どう取り組めばよいかわからず、課題に取り組むだけで終わることが多いため、課題を工夫し、自ら調べてみようと興味の湧く内容を考える必要がある。 ・課題について、補充学習を行うことで、あきらめず取り組む力を育て、無回答率の減少につなげていきたい。

取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

理科

- ・実験結果の考察や問題の解き方を自分の言葉で説明し、班で共有する時間を設ける。
- ・グループ活動、実験・観察を積極的に行い、実験の予想や結果における個人の意見を他者と考えを共有し、主体的に話し合う時間を作る。

指標・チャレンジテストの記述式問題の「無解答率」を大阪府平均以下にする。

(R5 年度チャレンジテスト本校「無解答率」 2 年生 : 10.7%、3 年生 : 6.6% 大阪府「無解答率」 2 年生 : 11.8%、3 年生 : 9.0%)

・授業アンケートにおける「主体的に話し合う時間がある」の項目において、肯定的な回答（あてはまる、ややあてはまる）の割合を全学年 75%以上にする。

(R5 年度 1 年生 : 83%、2 年生 : 42%、3 年生 72%)

結果と分析	3年生チャレンジテストの「無解答率」は、大阪府の平均4.4%に対して、3.1%であった。1.3%上回っている。3学年ともに実験・観察をカリキュラム通りに行うことができている。また、TTを2学期から行っていることで、実験・観察やグループ活動での声掛けやサポートも手厚く行うことができている。	
今後の改善点	実験・観察などを行う中で、率先して行う生徒と、そうでない生徒の差が大きいため、恥ずかしさや、自分の考えに自信を持てない生徒へのサポートを行い、全員がより参加しやすいように愛応していく必要がある。	

取組内容⑤【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

英語科

- ・自分の思いや考え、意見などを英語で表現し伝え合う活動を通して、「主体的かつ対話的に学ぶ」姿勢を育成する。
- ・全学年で習熟度別授業および少人数授業を実施し、きめ細やかな指導を通して、生徒の基礎基本の定着と論理的表現力等の向上を図る。

指標

- ・授業アンケート『授業内容がよくわかる』において、肯定的な回答を80%以上を維持する。(R5年度、肯定的な回答 1年 79%、2年 80%、3年 87%)
- ・中学生チャレンジテストにおける英語の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を問う問題の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(R5年度チャレンジテストの「平均点の対府比」、1年 1.03%、2年 1.15%)
- ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合4技能を 65 %以上にする。

結果と分析	3学年ともに通常授業ではTTで授業を行っていることで、苦手な生徒に細目に声掛けでき、サポートできている場面が多い。授業で英語を使うことを継続して行っていることもあり、英語を使う抵抗感は軽減しているように感じる。このまま継続し、英語を使うことが楽しいと実感できる生徒を育成していく。3年のチャレンジテスト結果は、対府平均+6.6だった。授業アンケートは現時点では未実施である。	
今後の改善点	全ての学年で、「聞く」「読む」「書く」力の向上を目指して授業展開しているが、特に書く力には大きな課題がある。問題を解くなど書くことの練習を中心に積み重ねていきたい。1, 2年生はチャレンジテストに向け、基礎基本を中心にトレーニングしていきたい。全学年で英語が苦手な生徒に対して、より参加しやすい授業の工夫をしていく。	

取組内容⑥【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

音楽科

- ・対話的で深い学びを進め、「教え合い」や「思いや意図を生かした授業」を実施する。
- ・技能の向上と共に主体的な学びを行い、行事における実技の充実を図る。

指標

授業アンケート『行事の時にしっかりと歌うことができていますか』において、肯定的な回答を 80%以上にする。

結果と分析	体育大会の国歌・市歌・校歌を歌唱するときに昨年度と比べて声を出すことができていた。(校舎の3階にも歌声がはっきり届いていた。)授業アンケートは 12 月に実施予定。文化祭の時には2・3年生ともに学年合唱にしっかりと取り組み、体育館を響かせることができていた。
今後の改善点	体育大会時、音楽科の方で校舎から指揮をしたが、生徒が主体的に歌唱できるような工夫を重ねていく。

取組内容⑦【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

美術科

- ・昨年度の授業を振り返り、指導計画を見直す。その単元で何を学ぶのか、どのようにして学ぶのか、何ができるようになるのか、生徒の実態に見合った目標に精査する。
- ・資質・能力を育てる授業を実践する。作品だけでなく言語活動や試験においても最適解を求められる授業にすることで生徒の考えが深まり、広がるようにする。
- ・通常学級に在籍している生徒の特性を把握し、整理する。生徒ひとりひとりへの指導の方向性を構築し、机間指導に反映させる。
- ・これらをもとに生徒が主体的に考え、表現しあう授業、受け身にならない授業を実践する。

指標

1年生：「授業内容がよくわかる」において、肯定的な回答 95%を維持する。

(参考：R5年度 1年生 98%、R4年度 1年生 95%、R3年度 1年生 97%)

2年生：「考えが深まる、広がる」において、否定的な回答 10%以下を維持する。

(R4年度 9%)

3年生：「考えが深まる、広がる」において、もっとも否定的な回答 4%以下を維持する。(R5年度 3% R4年度 5%)

結果と分析	<p>カラーブロックの授業において主体的・対話的で深い学びと言語活動を行った。生徒の視点では自己のキャリア形成の方向性との関連付け、生徒同士の協働を通じた自己の考えを広げ深める、美術科の特質に応じた見方・捉え方を働きかせることを指導改善の視点とした。授業者の視点では生徒の思考を見守る、その日の学びの振り返り、思考の交流、つけたい力の焦点化。これらを題材に反映させた。制作途中、生徒に行った問いは「なぜこの色なの?」「(過去を踏まえ)これからどうしたい?」など思考を広げられるようにした。学習者用端末を活用した対話的学びにより、自分の考えを言葉で表現できるようにした。</p>	
今後の改善点	<p>授業時数に対して言語活動に割く時間を精査する。1年生でも自分の思考を言語化でき、活動そのものは十分できることが伺えた。今後も教科特性である造形的な視点を活用した効果的な言語活動の実践を行う。</p>	
取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 保健体育科 <ul style="list-style-type: none"> ・めあて、振り返りを確実に行い、その日何を学んだかをわかりやすくし、「生徒に分かりやすい」授業を行う。 ・「生徒に分かりやすい」授業を行うことで、体の使い方や、コツ、ルールを理解し、分かる、できる楽しさや大切さを感じさせる。 ・運動が「できる」、「わかる」ことで興味関心を持ち、主体的に運動に取り組む生徒を増やす。 		
指標	<p>授業アンケート『授業内容がよくわかる』において、最も肯定的な回答を60%以上にする。(R5年度 もっとも肯定的な回答 56%)</p>	
結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや振り返りを行い、ICT機器を活用し視覚的にもわかりやすい授業を展開することが出来ている。 ・単元始めの授業と終わりの授業では確実にできる・わかる生徒が増えている。 ・アンケートは2学期末に実施予定である。 	
今後の改善点	<p>運動が苦手な生徒がわかりやすいポイントや視覚的な情報の教材研究を行っていく。</p>	
取組内容⑨【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 技術・家庭科 <ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加できない生徒へ、実習に見合った課題を提示し、評価する。 ・課題解決に向けて、主体的に考え、発表の充実を行う。 		
指標	<p>授業アンケートにおいて「主体的に話し合う時間がある」において、肯定的な回答を70%以上にする。(R5年度、肯定的回答 技術分野 1年 70%、2年 45%、3年 70% 家庭分野 1年 79%、2年 67%、3年 78%)</p>	

結果と分析	技術:授業に参加できない生徒には、授業で使ったプリント類を配布している。プリント学習、作業が中心になり、発表の機会が少なかった。 家庭:ER や夏休み、放課後を活用して、製作対応を6名して、文化祭に展示することができた。(1,2 年生作品完成度が96%であった。)少人数であるため、質問がしやすく、じっくり対応ができ完成度が高くなつた。2年生で課題解決に向けて話し合い、発表することができた。			
今後の改善点	技術:2、3学期に向け、発表の機会ができるよう工夫していきたい。 家庭:1, 3年生で課題解決にむけて発表ができるようにする。			
取組内容⑩【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】				
特別の教科道徳（人権・道徳教育委員会） 毎時間、「自分へのふりかえり」を盛り込んだ「道徳の振り返りシート」を作成し、4段階の自己評価をする。学期末に各学年で「学期の道徳の授業まとめ」を実施し、実施結果を「学期評価」に反映させる。				
指標	「道徳の振り返りシート」を学期ごとにアンケートを実施し、「考えを深めることができた」において肯定的な回答を80%以上にする。			
結果と分析	1 学期の道徳アンケート「考えを深めることができた」において肯定的な回答が99%になった。			
今後の改善点	1学期のアンケート実施が周知できていなかつたので、2 学期以降のアンケートについては全体周知と実施時期を計画的にする。			
取組内容⑪【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】				
サポートルーム（インクルーシブ教育推進委員会） ・個別の指導計画を作成し、個の課題に応じた自立支援に努める。 ・学級担任、学年、教科担当との連携を密に行い、生徒の状況を確実に把握し、一人ひとりに適した支援を展開する。 ・生徒、保護者、学校が協働して誰一人取り残さない学力の向上に努める。				
指標	サポートルーム保護者アンケート「特別支援学級は、生徒一人ひとりのよさを生かす教育活動に取り組んでいる」において、肯定的な回答 90%以上を維持する。(R5 年度 95.8%)			
結果と分析	サポートルーム保護者アンケート「学校は、生徒一人ひとりのよさを生かす教育活動に取り組んでいる」において、肯定的な回答が 88.0% であつた。個別の教育支援計画に基づいて、自立活動や、一人ひとりに適した支援を行つてゐる。			
今後の改善点	登校することが難しい生徒や情緒が不安定な生徒が一定数いるので、特別支援学級が生徒たちの居場所になるように環境整備に努めると共に、学級担任、学年、教科担当、保護者との連携を一層密に行い、生徒の実態を正確に把握する必要がある。			
取組内容⑫【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】				

授業改善（教務部）

- ・相互授業参観による学びあいを通じて教員の授業力向上を図り、自身の授業において改善点を具体的に反映させる。
- ・R 5年度チャレンジテストの結果を振り返り、R 6年度の授業に反映させ授業改善を図る。
- ・生徒の学力向上について漢字検定、英語検定に向けた取り組みを実施する。

指標

- ・生徒アンケート「先生は、教え方をいろいろ工夫している」において、最も否定的な回答3%未満を維持する。（R 5年度 0.7%、R 4年度 0.7%）
- ・全学年5教科の領域等別平均点において、大阪府平均を超える項目の割合80%以上を維持する。（R 5年度 36/45項目→80%、R 4年度 38/49項目→78%）
- ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を(4技能)65%以上を維持する。（R 5年度 73%、R 4年度 67%）
- ・漢検で生徒各自が目指すライセンス3級までの取得率を70%以上にする。（R 5年度 69.2%、R 4年度 24.0%）

結果と分析	・1学期に相互授業参観を実施した。各教員は研究授業を1回、参観は1回以上行った。放課後に討議を行い、直接対話することで教員間での授業改善を図った。・R6年度 3年 17/19項目→89.4%と設定した目標を上回った。1, 2年生は結果を分析し、弱みのある項目を授業で補っている。書く問題が苦手な生徒へグループワークを行った後に記述問題に取り組む。復習をしてからスマーモールステップにて個に応じた指導を行い、達成感を持たせる。課題プリントや定期テストでチャレンジと同じ傾向の問題を出題する。・大阪市英語力調査：現在結果待ち。・英語検定：現在結果待ち。検定を迎えるまで各学年3回面接対策を行った。面接官にはC-NETを活用し、取得率の向上を図った。・漢字検定：(R6年度合格率 3級 50%、4級 32%、5級 30%、9級 0%、10級 0%)だった。結果を踏まえ、熟語、書き順などに弱みを感じる。
今後の改善点	・実施時期の精査。参観後の討議へ参加できるよう調整し、次年度に向けた改善を図る。・継続して授業を行う。R6年度実施チャレンジテストにて授業実践の結果を検証する。・大阪市英語力調査、英語検定は結果が出てから分析を行う。漢字検定は上記の対策を講じ、取得率向上を図る。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

進捗

		状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 体力・運動能力向上のための取組の推進（保健体育科・再掲） ・「めあて」「振り返り」を確実に行い、その日何を学んだかをわかりやすく示す。そのことにより「生徒に分かりやすい授業」を行う。 ・「生徒に分かりやすい授業」を行うなかで、体の使い方や、コツ、ルールを理解し、できる楽しさや大切さを感じさせる。 ・運動が「できる」、「わかる」ことで運動すること興味関心を持ち、主体的に運動に取り組む生徒を増やす。		
指標 新体力テスト『運動は好きですか』において、もっとも肯定的な回答を53%以上にする。（R5年度 もっとも肯定的な回答 47.3%）		
結果と分析	・めあてや振り返りを行い、ICT 機器を活用し視覚的にもわかりやすい授業を展開することが出来ている。 ・単元始めの授業と終わりの授業では確実にできる・わかる生徒が増えている。その結果、昼休みグラウンドに出て体を動かしている生徒が増えている。運動が楽しく好きな生徒が増えている結果である。 ・アンケートは1学期末に行ったが結果は3学期末予定である。	
今後の改善点	わかる授業が継続して行えるように教材研究を継続して行う。 また運動が好きな生徒を更に増やしていくよう運動の楽しさを授業や行事の中で伝えていく。	
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 健康教育・食育の推進（健康教育部、給食委員会） ・保健委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人一人が健康に気を付けるように取り組んでいく。 ・学校保健委員会で、課題解決に向けた具体的な活動の推進をするため、発表の充実に取り組む。 ・食に関する知識を身につけるため、学校給食を生きた教材とし、技術・家庭（食生活と自立など）など関連する教材と連携し、指導を行う。 ・美化委員会の活動を充実させ、生徒の美化意識向上に取り組む。		
指標 ・健教独自アンケート(生徒)を年に2回(1学期末・2学期末)実施し検証と改善に取り組む・健教独自アンケート(生徒)「自分の健康に気をついている」において、肯定的な回答を82%以上を維持する。（令和5年度 87%） ・健教独自アンケート(生徒)「朝、すっきりと起きることができる」において、肯定的な回答を62%以上を維持する。（令和5年度 62%） ・健教独自アンケート(生徒)「できるだけ給食を残さずに食べている」において、肯定的な回答を82%以上を維持する。（令和5年度 88%）		

・健教独自アンケート(生徒)「毎日の清掃では、清掃場所をきれいにしようと取り組んでいる」において、肯定的な回答を90%以上を維持する。(令和5年度98%)	
結果と分析	①「自分の健康に気をつけている」については、二学期末の学校アンケートの結果待ちである。以下健教独自アンケート(前期)より ②「朝、すっきりと起きることができる」において、肯定的な回答は53%であった。③「できるだけ給食を残さずに食べている」において、肯定的な回答は95%であり、前年度を上回っている。(令和5年度88%) ④「毎日の清掃では、清掃場所をきれいにしようと取り組んでいる」において、肯定的な回答は98%であった。前年度と同じく指標を達成している。(令和5年度98%)
今後の改善点	「朝、すっきりと起きることができる」について指標を下回っており、家庭との連携や生徒への啓発が必要と思われる。

(様式2)

大阪市立大淀中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 ICT を活用した教育の推進（ICT 委員会）	年度目標	達成状況
<p>【教員を支える教育環境の充実】用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ：ICT の活用に関する目標 <p>① 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。【ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用がし難い日数を除く】（新規追加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールフィルムにて、生徒の心の状態や日々の状態を可視化し、いじめや不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。 <p>教職員の働き方改革に関する目標</p> <p>③ 学年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。 (新規修正 R5-82%)</p>		
結果と分析	4月から9月の統計は、70.5%である。「心の天気」の活用が影響している。クラスや学年によって、利用率の偏りがある。また、端末を学校に忘れているケースが多い。	
今後の改善点	今後も毎日、各クラスでの「心の天気」の入力を継続して指導していく。家庭と連携し、端末を忘れている生徒への指導を継続して行う。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革の推進（管理職）		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の精選、始業式・終業式の弾力的活用、懇談時間等の適正な実施。 ・部活動指導員活用に伴う長時間勤務の是正。 ・ゆとりの日の設定 		
指標		
<ul style="list-style-type: none"> ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。 (R5年度 取得率82%、R4年度 取得率84%、R3年度 取得率62.1%) ・80時間以上の教職員を減少させる。 		
結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・10月末現在、10日以上の年次有給休暇を取得している職員の割合は、48.6%である。また、5日以上10日未満の職員は、42.9%である。 ・現在、4名の教職員が80時間以上の長時間勤務者あり。 	
今後の改善点	計画的な年次有給休暇の取得や業務の分担が図れるように、ゆとりの日の活用に努める。	
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域と連動・協働した教育の推進】 地域の教育資源と協働して、子ども達の成長を支える（主任会、生活指導部、各学年）		

- ・「大淀中学校教育活動グランドデザイン」を策定し、大淀中学校学校元気アップ地域本部、区役所、消防署、地域活動協議会、学校医、大阪医専等と協働して多様な経験を通して、心に響く教育を推進する。

例) おおよど学びTAI、地域防災訓練、北区芸術鑑賞会、早朝清掃、地区奉仕活動、北区出前授業、歯と口の健康教室、職業体験等

指標

事後アンケートに関して、肯定的な回答を95%以上にする。

(R5年度 生徒アンケート「防災訓練は役に立ちましたか?」99%、R4年度 生徒アンケート「防災訓練は役に立ちましたか?」98%)

結果と分析	<p>生徒アンケートについては、後日実施予定。4月20日に行われた防災訓練では、区役所、消防署、地域の皆さんに協力していただき実施することができた。9月に実施した防災訓練や日々の防災に対しての学習を踏まえて、11月実施予定の生徒アンケート「防災訓練は役に立ちましたか?」について分析する。元気アップによる「おおよど学びTAI」の取り組みは、1年生は12月11日実施予定。北区芸術鑑賞は実施済み。早朝清掃は予定通り実施できている。地区奉仕活動は、1学期の取り組み時期に感染症の拡大の影響により実施できていない。2学期は実施予定である。歯と口の健康教室においても、学校医や大阪医専の方の協力で実施できた。2年生において、1学期に多くの事業所の協力のもと、職場体験を実施済みである。</p>	
今後の改善点	まだ実施できていない取り組みがあるので、計画的に連携を図って実施していく。	